

# あなたにもっと知ってほしい **がん** のこと

## 活用の手引（教師用）

生涯のうち、国民の2人に1人がかかると推測されるがんは重要な課題であり、健康に関する国民の基礎的素養として身に付けておくべきものとなっています。

本リーフレットは、中学校学習指導要領（平成29年告示）を踏まえ、文部科学省発行の「がん教育推進のための教材」（令和3年3月一部改訂）及び「外部講師を活用したがん教育ガイドライン」（令和3年3月一部改訂）を参考に作成しています。各学校でがん教育を実施する際、活用してください。

### ●がん教育とは

健康教育の一環として、がんについての正しい知識と、がんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図ります。

#### がん教育の目標

- 1 がんについて正しく理解することができるようにする。
- 2 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

### ●学習指導要領における位置付け

#### 中学校学習指導要領 第2章 各教科 第7節 保健体育〔保健分野〕（抜粋）

##### 2 内容

- (1) 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。
    - イ 生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病の多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。

##### 3 内容の取扱い

- (1) 内容の(1)のアの(イ)は第2学年で取り扱うものとする。
- (3) また、がんについても取り扱うものとする。

#### 中学校学習指導要領解説保健体育編（抜粋）

##### (ウ) 生活習慣病などの予防

###### ④ がんの予防

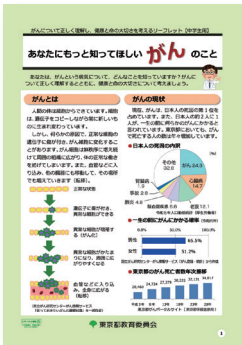
がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることを理解できるようにする。

また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることを理解できるようにする。

総則では、「中学校教育の基本と教育課程の役割」として、体育・健康に関する指導は、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うとされています。カリキュラム・マネジメントの視点から、保健体育科だけでなく特別活動や特別の教科 道徳等と関連付け、教科等横断的に取り組むことも考えられます。



## 1 ページ



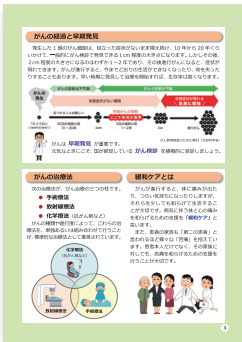
- 中学校では、がんについて**科学的根拠に基づいた理解をすることが主なねらいです。**
- 細胞分裂の際、遺伝子が傷付いてできた「がん細胞」は、健康な人でも毎日 1000 個以上発生していると言われます。通常は、免疫が働いてこれらのがん細胞を死滅させています。しかし、年を取ることなどにより免疫が低下すると、発生したがん細胞を死滅させることが難しくなります。

## 2 ページ



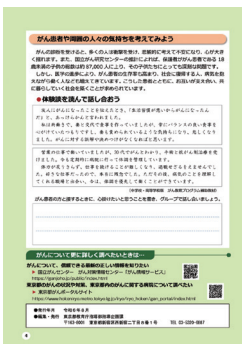
- **喫煙はがんにかかるリスクを高めます。**日本人の場合、男性のがんの約 24%、女性のがんの約 4% は喫煙が主な要因と考えられています。飲酒や塩分の取りすぎも、リスクを高める生活習慣です。また、細菌やウイルス感染によるがんもあります。がんの原因は複合的であり、原因不明のがんも多いため、**がん患者は生活習慣に問題があるといった誤った認識をもたせないように気を付けましょう。**
- 小児がんは多くが原因不明です。学校におけるがん教育では、主として大人のがんを対象としています。
- がんの怖さのみを印象付けるのではなく、**望ましい生活習慣を実践することによって、リスクを軽減できることを強調します。**

## 3 ページ



- 国は、**全てのがん検診の受診率 50% を目標としています**が、まだ達成できていません。
- がん治療には、主に**手術、放射線、化学の3つの治療法**があります。手術療法は、最近では内視鏡を用いた手術など、負担を軽減する手術方法が普及しつつあります。放射線療法は、放射線を照射することによってがん細胞を死滅させる方法で、通院で行うことができます。抗がん剤などの薬を用いる化学療法は、がん細胞の増殖を抑えますが、脱毛や吐き気などの副作用が表れることがあります。医師と相談しながら、患者の意思に基づいて治療法を決定することが大切です。
- 緩和ケアにおいては、モルヒネに代表される医療用の麻薬が、がんの痛みを取る切り札とされています。日本ではこの医療用の麻薬の使用量が欧米に比べて圧倒的に少ないことが指摘されています。

## 4 ページ



- 増え続けているがん患者や、その家族の気持ちに寄り添い、思いやりをもった対応ができるようにすることは、がん教育のねらいの一つでもあります。実際にがん患者・経験者を外部講師に招いたり、体験談を基に考えさせたりする際には、「**自他の健康と命の大切さを主体的に考えることが、充実した人生につながる**」という積極的なメッセージが含まれることを念頭に置いて指導しましょう。

### がん教育に役立つ情報

「がんについて正しい情報を知りたい」「いい教材はないかな?」という先生方へ

#### 指導事例やパワーポイント教材、映像資料等

▶ 文部科学省ホームページ

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1385781.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1385781.htm)



#### 映像教材やアニメ教材「よくわかる!がんの授業」等

▶ 日本対がん協会ホームページ

<https://www.jcancer.jp/>



#### がんに関する正しい情報等

▶ 国立がんセンターがん対策情報センター

「がん情報サービス」

<https://ganjoho.jp/public/index.html>



#### 東京都のがんの状況や対策、がんに関する病院等

▶ 東京都がんポータルサイト

[https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/iryo/iryo\\_hoken/gan\\_portal/index.html](https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/iryo/iryo_hoken/gan_portal/index.html)



## 家族にがん患者やがん経験者がいる生徒への配慮

がん教育を実施する際、事前に保護者から情報を得るなどして、次のような生徒がいないか把握します。また、そのような生徒を事前に把握できない場合も、いることを前提に配慮する必要があります。

- 小児がんの当事者、又は小児がんにかかったことのある生徒がいる場合
- 家族にがん患者やがん経験者がいる生徒や、家族をがんで亡くした生徒がいる場合
- がんに限らず、重病・難病等にかかったことのある生徒や、家族に重病・難病等の患者がいたり、家族を亡くしたりした生徒がいる場合 など

### <配慮の例>

- がん教育の内容や方法、実施時期を工夫する。
- 本人に限定されるような内容に特化せず、事例を一般化するなどの工夫をする。
- 授業の冒頭で「悲しくなったり、聞いているのがつらくなったりした場合は、先生に伝えてください」等の言葉掛けをする。など

がん経験者の方の話を聞いて、「おじいちゃんががんになったとき、どうすればいいか分からなかったけれど、普段どおりに接していたことが助けになっていたと分かってホッとした」という感想をもった生徒もいました。



## 外部講師の活用

がんという疾病に関する理解をねらいとした場合は、専門性の高い内容が含まれるため、学校医、がん専門医等を外部講師とした指導が効果的です。

健康や命の大切さをねらいとした場合は、がん患者やがん経験者による指導も効果的です。

### <留意点>

- 教員が行う授業と、外部講師の協力を得て行う学校行事等に関連させて指導すること。
- 生徒の発達段階を十分考慮した内容や指導を心掛けるなど、学習指導上の留意点を事前に外部講師と共有すること。また、授業計画の作成に当たっては、授業を企画する教員が主体となること。
- 教員と外部講師は、授業の事前に打合せを行い、授業のねらいを確認すること。
- 生徒の家族にがん患者やがん経験者がいる場合には、がん患者やがん経験者による体験談は強い印象を与える可能性があること。
- がん教育実施上の手順例

#### ▶ 準備段階の手順（例）

	企画	打合せ	準備・事前指導
学校内	保健主事、授業を担当する保健体育教諭、学級担任等を中心に核となる教員を決め、関係教職員と連携しつつ、外部講師を活用したがん教育を企画する。	教職員の共通理解を図り、実施内容等について話し合う。 また、教科書やがん教育に関わる資料を準備し、講師予定者との打合せに備える。	当日の生徒に配布する資料や使用する視聴覚機材を準備する。必要な場合には事前学習・事後指導等を行う。
関係者との調整	関係機関に講師の派遣を依頼する。 ・事前打診 ・正式依頼状送付 ・打合せ日程調整	講師予定者と当日の指導内容や指導方法について打合せを行う。 ・詳細な日程 ・講師と学校の役割分担 ・準備品等 ・指導上の留意事項の確認	資料や視聴覚機材についての最終確認を行う。 講師と教員との役割分担についても確認する。

#### ▶ 実施段階の手順（例）

	外部講師を活用したがん教育	事後指導	評価まとめ
学校内	本時におけるがん教育の目的・ねらいの説明、講師の紹介等を行う。	学校の実情に応じて、各教科等の学習内容と関連付けた指導を行う。	成果や課題について担当者で話し合い、すべての教職員で共有する。
外部講師との調整	講師との最終確認を行い、がん教育を実施する。	外部講師に授業実施後の感想などを尋ねるとともに、児童・生徒からの質問や感想を提供し、指導上の課題や事後指導について話し合う。	講師及び講師の所属先に礼状を出す。

※外部講師を活用したがん教育ガイドライン（文部科学省 令和3年3月一部改訂より）参考

## あなたにもっと知ってほしい がんのこと

### 1 目標

がんという病気について理解することを通して、自他の健康と命の大切さに気付き、病気を予防することや、病気と共に生きる人の気持ちに寄り添うことができるようにする。

### 2 指導計画（3時間）

時	教科等	学習内容
1	保健体育（保健分野）	・がんの疾病概念や予防等について、正しい基礎知識を身に付ける。
2	※単元「健康な生活と疾病の予防」中の2時間	・がんの早期発見や治療法について知り、今の自分にできることと大人になってから気を付けたいことについて考える。
3	特別活動（学校行事） ※学年単位で実施	・がん患者やその家族に対する理解を深め、望ましい関わり方を考える。 ・自他の健康や命を大切にしようとする意識を高め、病気とともに生きる人に思いやりをもって接することができるようにする。

### 3 展開例

時	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
1	<ol style="list-style-type: none"> <li>本時では、病気の中でも「がん」について学ぶことを確認する。</li> <li>がんに関する基礎的な知識を理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>がんは、日本人の死因第1位であることを知る。</li> <li>がんという病気について、今もっているイメージや、その理由を話し合う。</li> </ul> </li> <li>がんの仕組みについて理解する。</li> <li>がんの原因や、がんにかかる危険性が低くなる生活習慣の在り方について知る。</li> <li>自分の生活を振り返り、改善したいことや、これからも継続したいことを考える。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○配慮を要する生徒の情報等を事前に把握しておく。</li> <li>○授業中にも悲しくなったりつらくなったりした場合にはいつでも申し出るよう言葉を掛ける。</li> <li>○死因の内訳をグラフで示す（リーフレットP.1）。</li> <li>○どのようなイメージも否定せず、ありのままを受けとめる。</li> <li>○がんの成り立ち等を説明する（リーフレットP.1）。</li> <li>○がんの原因と、望ましい生活習慣の在り方について理解できるようにする（リーフレットP.2）。</li> <li>○病気の予防という観点で自分の生活習慣の課題に気付き、具体的に解決方法を考えるよう助言する。</li> </ul>
2	<ol style="list-style-type: none"> <li>前時の学習内容を確認する。</li> <li>がんの早期発見の重要性を理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん検診を受けるのはどのようなときか考える。</li> <li>・早期発見したがんは治ることを知り、健康なときに積極的に検診を受けることの重要性を理解する。</li> </ul> </li> <li>がん治療の三つの柱（手術療法、放射線療法、化学療法）について、どのような方法なのかグループで調べ、まとめる。</li> <li>グループで調べたことについて発表する。また、緩和ケアの概要について理解する。</li> <li>自他の健康を守るために今できることや、将来気を付けたいことを考える。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族にがん検診を受けるよう勧める。</li> <li>・運動習慣を身に付け、大人になっても継続する。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がん細胞の変化の過程を説明し、早期発見できる時期に積極的に検診を受ける必要があることに気付かせる（リーフレットP.3）。</li> <li>○がん治療の三つの柱（手術療法、放射線療法、化学療法）をグループごとに割り当て、インターネットや資料を活用した調べ学習を支援する。</li> <li>○生徒の調べた内容について補足説明するとともに、体と心の痛みを和らげる緩和ケアを併せて行うことについて説明する（リーフレットP.3）。</li> <li>○自他の健康を視野に入れて話し合うよう言葉を掛け、具体的な対処法を考えさせる。</li> </ul>
3	<ol style="list-style-type: none"> <li>保健体育の学習内容を確認する。</li> <li>医師による講話を聴く。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんという疾病について、医学的見地から科学的根拠に基づく理解を深める。</li> <li>・がん患者やがん経験者及び家族にまつわるエピソードを聴き、その思いに触れる。</li> </ul> </li> <li>がん患者やがん経験者と接するとき心掛けたいと思うことをリーフレットに記入するとともに、グループで話し合っって自己の考えを深める。また、外部講師に感謝の気持ちを伝える。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部講師（学校医もしくはがん専門医）を紹介する。講話の内容について、事前に打ち合わせておく。</li> <li>○健康や命の大切さについて考えたり、がん患者やがん経験者の思いに寄り添った対応について考えを深めたりできるよう助言する（リーフレットP.4）。</li> </ul>

※評価計画等は略

●発行年月 令和6年8月  
 ●編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
 〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 TEL 03-5320-6887